

「日本一学びが好きな子ども&街」をめざして

下関市立川中中学校

学校運営協議会について

- ◆本校学校運営協議会（例年：年度始め1回、各学期末1回開催）
学校教育目標と取組の状況（生徒指導、学力向上）、今後の取組・提案
コミュニティ・スクールの取組状況
- ◇今年度…年度始め1回、臨時2回、2学期末1回、年度末1回開催
 - ・6月10日臨時…今年度の学校行事、PTA行事他について検討
 - ・7月27日臨時…今年度の修学旅行（中止について承認）
- ◆川中中学校区 合同学校運営協議会（例年：各学期末に1回開催）
 - ・各学校コミュニティ・スクールの取組状況
 - ・共通テーマ（共通取組事項）についての確認
- ◇今年度…1，3学期の開催は中止。2学期末に開催しました。

特色ある活動

◆学校支援

○あいさつ運動の実施 実施日：「0」のつく日

地域の方、PTA、生徒会執行部、教職員が参加し、7時50分から30分間、行っています。

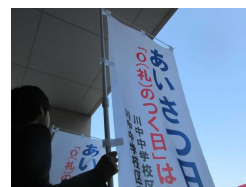
○昼休み、手芸教室 実施日：毎週月曜日の昼休み

サポーターズの方を中心に実施しています。

月替わりで内容を変えながら、小物づくりを中心に実施しています。手芸なので女子生徒が多いが、毎週の実施を楽しみにしている生徒も多く、毎回大盛況となっています。

◆三校共通横断幕の作成

小中連携を進める中で、自然発生的に「川中三校で何か共通するものを作ってはどうか」という声が上がってきました。幟旗の案もあったが、あいさつ運動用の幟旗ですでに作成しており、最終的に横断幕で意見がまとまりました。共通のテーマを掲げ、三校それぞれの学校キャラクターをのせています。（一校のみキャラクター作成中）学校運営協議会で承認をいただき、作成費については青少年健全育成協議会から支出いただけるようはたらきかけました。今年度末から来年度初めに向けて掲げる事を目標に現在作成中です。



日本一学びが好きな子ども&街をめざして

下関市立〇〇〇〇学校

川中中校区小中合同学校運営協議会
川中中学校区青少年健全育成協議会



来年度に向けて

コロナ渦において、学校運営協議会の存在は貴重でした。行事の中止や変更が余儀なくされる中、学校運営の後押しとして力添えをいただきました。また、年度当初は学校支援や地域貢献の実施状況はゼロであったが、年度途中から学校支援活動を徐々に再開し、現在に至っています。例年に比べると、20%程度の活動ではあるが、今後、状況を判断しながら再開していくこととなると思います。課題としては、参加者が固定化されており、地域の方や保護者など、広く募集を募る必要があることや、今回のコロナをきっかけに、実施の形態について再考する必要があると考えられます。（「川中塾いくら〜ん」は今まで休日に大学と連携して実施していたが、平日の実施ができないか…など）

「ふるさと川中を愛する心の育成」をめざして

下関市立川中小学校

学校運営協議会について

(1) 実施回数

年間2回開催（年6回（内3回は中学校区合同開催）を予定していましたが、コロナウイルスの関係で年2回（内1回は中学校区合同開催）となりました。）

(2) 主な協議内容

- ・本年度の学校経営方針の説明と承認
- ・学校評価の報告、来年度の学校運営方針の提案
- ・小・中・地域連携カリキュラムの推進
- ・学力向上の取組
- ・学校行事等の実施状況の報告と今後の予定



川中小学校運営委員会の様子

特色ある活動

(1) 子供と地域の方とのつながり

外部講師を招いて、例年多くの体験活動を実施していますが、今年度は一部しか実施できず、貴重な交流の場、体験の場を確保することができませんでした。

○ ルル・フラワーの会（大人だけの活動）

校内に花を飾り明るい雰囲気作りに少しでも役に立ちたい、ルル・フラワーの会の活動を続けたいとの申し出により、地域の方に生け花の提供をいただきました。

- 農業体験（じゃがいも・さつまいも・大根）
- クラブ活動の指導（茶道・将棋・太鼓・昔の遊び）
- 卒業生へ胸花の贈呈
- ふれあい川中ウォッチング

地域の方の説明で6年生が校区を歩き川中の豊かな史跡と自然を学習しました。



ふれあい川中ウォッチングの様子

(2) 保護者と地域の方とのつながり

○ 1年生下校付き添い

臨時休校明けに新入生の下校時に付き添い、保護者に児童を引き渡しました。

○ 登下校時の見守り活動、交通指導

(3) 保護者と学校をつながり（子供たちを支援するPTAのサークル活動）

絵本サークル

- 図書室に入れて欲しい本のアンケートや、教職員お勧めの本紹介など、子どもたちと本との関わりを推進するための取組を行って下さいました。

来年度に向けて

今年度はコロナ禍で活動ができなかったものが多く、子どもと地域の方とのふれあいの場は限られてしまいました。一方で可能な方法を探り、来年度に向けた新たな取組も試行されるなど、今後も子どもたちが地域と共にある川中小学校で、学校と地域、家庭が知恵を出し合い、子どもたちのために取組を進めていきたいと思っております。

コロナ禍でも 子どもたちのために できることを ～ビヨンドコロナを見据えながら～

下関市立熊野小学校

くまの応援隊について

熊野小学校では、あらゆる分野で学校支援活動をする地域人材・保護者を「くまの応援隊」と銘打ち、これまで学習支援、登下校見守り、環境整備等、様々な分野で学校生活を支援していただけてきました。しかし、コロナの影響で活動状況は一変しました。本年度はこのようなコロナ禍で、どのように「くまの応援隊」の活動ができるのかを模索する一年でした。

コロナ禍での活動

◆マスク作り

春の一時期、マスクが手に入らなくなりました。マスクの材料も品薄になりましたが、地域の方に布を寄付していただき、くまの応援隊で手作りマスクを作り、全校児童と地域のお年寄りに配付しました。



◆安全・見守り支援

密に気を付け、子供たちの安全・安心のための活動を続けました。一年を通して登下校時の交通指導、地域探検の引率、持久走練習の安全管理等の見守りをしていただきました。地域の方に見守っていただくだけで、子供たちはいつも以上の力を発揮するものでした。

◆学習支援

ミシンの手伝いや音読チェックなどの、児童と密接した学習支援ができなくなったので、学習プリント印刷や読み聞かせを中心に支援していただきました。読み聞かせグループ「てんとうむしの会」は、朝学の時間に活躍しています。



◆環境整備支援

図書室の整理や飾り付け掲示、学校周辺の草刈り等、コロナ禍でも3密に十分配慮しながら、環境整備活動をしています。「できる時に できる人が できることを そして楽しく」をモットーに、保護者や地域住民が学校の為に主体的に活躍しています。



10月からは、「地域と作ろう あい KUMA ふれあい花壇」作りが始まりました。くまの応援隊や地域の方が、小学校の花壇で花苗選びから、耕作・苗植え・草取り・水やりを行っています。地域の誰でも参加できる活動として、常時参加者を募っています。



来年度に向けて

昨年度まで、放課後の学校で地域住民と開催してきた「大人の学び場」と銘打った「フラワーアレンジメント教室」「切り絵教室」「英会話教室」などは、現在中止しているが、今後、参加人数制限やマスク着用、ソーシャルディスタンス等に気を付けながら再開していく予定です。また、昨年3月には「子供食堂」のスタートも準備していたが、コロナ感染防止のため延期しています。それぞれの活動は、形を変えて継続しながら、新たな活動にもチャレンジしていきたいと思えます。教職員が子供たちに、支援してくださっているボランティアの存在を知らせ、「たくさんの方に支えられ、見守られている」ことに感謝できるような言葉かけをすることが大切です。「自分も人のために 何かできることをしたい」と思える子供に育つことを願っています。そんな子供たちの姿を見れば、ボランティアの方々も「やりがい」を感じ、学校と保護者と地域がさらに繋がっていけると思えます。